

## 目次

### (177) 製品関連記事

- ▽「歩行補助車電動で制御 速度調整し転倒防ぐ／ナブテスコ」
- ▽「看護師 VB 現場の声運ぶ 子ども安心点滴棒／メディディア」
- ▽「音声で動画検索、簡単操作／米アップル」
- ▽「楽に水拭き 高齢者支持／シー・シー・ピー」

### (178) その他、各種関連記事

- ▽「3秒以内で排尿通知／立命館大」

### (179) 新刊紹介

- ▽『発達障害がある子のためのおうちでできる就学準備  
小学校が楽しくなる療育プログラム』
- ▽『精神疾患と障害差別禁止法  
雇用・労働分野における日米法比較研究』

---

### (177) 製品関連記事

#### ▼「歩行補助車電動で制御 速度調整し転倒防ぐ／ナブテスコ」

ブレーキなど制御装置大手のナブテスコは道の傾斜や歩行速度に応じ、自動でブレーキを調整する歩行補助車を開発した。手押し車のように持ち手を押して足腰が弱い高齢者の歩行を支える。上り坂は電動モーターで車輪の回転を補助し、下り坂は自動でブレーキをかけ速度が出過ぎないように調整する。

開発した歩行補助車は身長のおよそ半分ほどの土台に四輪と持ち手が付き、足のふらつきや転倒を防止する。開発・製造してきた介助用電動車いすの技術に応用した。押し引きの強さ、角度、速度を検知する3つのセンサーを内蔵し

た。新製品では電動ブレーキを搭載した。上り坂を登るための電動モーターも初装備した。

車体色は銀色に赤や黒を組み合わせただけのほか、従来のパイプ型のフレームから、板状のがっしりとしたフレームにした。

(日経産業新聞 1月19日3面より抜粋)

#### ▼「看護師 VB 現場の声運ぶ 子ども安心点滴棒／メディディア」

「看護師」発のベンチャーが増えてきた。医療現場の不便さや、医師でも気付かない患者の不満をすくい取り、それを改善する商品やサービスを生み出す。

看護師の山本典子氏はメディディア医療デザイン研究所の社長を務め、厚生労働省の承認を必要としない医療現場の小物道具を開発している。

ヒット作のひとつが調査を起点として10年に開発した子供用点滴棒「フィール」。直径約30cmのリンゴの形をしたプレートを備え、子どもたちにメッセージを書き込める。転倒しづらくつかみやすいよう持ち手部分をハンドルタイプの円形にした。小さなぬいぐるみも置ける。

先行して看護師向け医療用テープカッターも開発した。首からつるし、容器の中から引き出すテープを蓋を回すだけで簡単に切れる。通常は看護師がはさみで切っており、手間がかかっていた。衛生面や安全面の改善にもつながる。

現場の当事者でしか見えない商機がある。その現場の参入障壁が高ければ高いほど、より独自性の強い事業が生まれる。看護の現場はそんな可能性をたくさん秘めている。

(日経産業新聞 1月20日3面より抜粋)

#### ▼「音声で動画検索、簡単操作／米アップル」

「アップルTV」。米アップルが3年半ぶりにリニューアルしたインターネットの動画をテレビで見るための接続機器で、「第4世代」の製品となる。ネットで配信された映画やドラマを視聴できるのは従来と同じだが、リモコンにマイクを内蔵し、音声アシスタント機能「Siri(シリ)」で作品を探せるようになった。出演者やジャンル名を吹き込むだけで検索できるほか、「人気がある番組」といった曖昧な言葉からも関連性のある作品を探せる。リモコンにはタッチパッドを新たに搭載、スマートフォン(スマホ)のように指で操作できる。

映像作品はアップルの「アイチューンズストア」で購入できる。ネットブックなど、アップル以外の動画配信サービスの視聴にも使える。

(日経産業新聞 1月20日15面より抜粋)

#### ▼「楽に水拭き 高齢者支持／シー・シー・ピー」

バンダイ子会社で家電製品の製造・販売を手掛けるシー・シー・ピーが、2015年7月に発売した電動式モップ「コードレス回転モップクリーナー」の売れ行きが好調だ。同12月末までに累計で3万台弱を出荷し、予想の2倍に迫る売れ行きだという。力を入れずにフローリングを水拭きできることが高齢者を中心に支持されている。

モーターを使って極細繊維を織り込んだモップを回転させ、汚れをふき取る。通常のモップに比べると、水を含んだモップを動かすときのずっしりとした重さを感じずに床を掃除できる。

(日経産業新聞 1月21日15面より抜粋)

---

(178) その他、各種関連記事

#### ▼「3秒以内で排尿通知／立命館大」

立命館大学の田中亜実特任助教と道関隆国教授らは、排尿を検知する使い捨てタイプのセンサーを開発した。紙おむつと組み合わせ、3秒以内に排尿が分かる。尿で発電するため、電池交換や給電も不要だ。人手不足が深刻化する介護の負担軽減やサービス向上に役立つとみており、高齢者施設で近く実証実験を始める。紙おむつメーカーなどと協力し、3年後の実用化を目指す。

排尿検知システムは、おむつに組み込むシート状の電極と、無線通信の回路、受信機などで構成する。シートは2枚で、それぞれ安全で安価な炭素とアルミニウムでできている。おむつの吸水シートに沿って取り付ける。尿が漏れて2つの電極に触れると、尿が電解液の役割を果たし、電池になる仕組みだ。

システムは乳幼児でも使えるが、主に高齢者向けに実用化を考えている。現在、高齢者施設と協力し、実証実験を計画中だ。現場のニーズをくみ取り、さらに改良を加える予定だ。

(日経産業新聞 1月20日8面より抜粋)

---

(179) 新刊紹介

▼『発達障害がある子のためのおうちでできる就学準備  
小学校が楽しくなる療育プログラム』

発達障害がある子が「学校のルール」を身につけるための本。「チャイムが鳴ったら席に座る」「引き出しから物を出す」「プリントを後ろにまわす」など家庭で練習する方法をていねいに紹介する。チェックリストあり。

著：道城裕貴（どうじょう・ゆき）寺口雅美（てらぐち・まさみ）

発行：合同出版

本体価格：1800円（税別）

ISBN：978-4-7726-1257-9

▼『精神疾患と障害差別禁止法  
雇用・労働分野における日米法比較研究』

「障害のあるアメリカ人に関する法律」を20年以上運用するアメリカ。その経験を精神疾患を軸に分析し、障害差別禁止法の意義と、精神疾患の事案において有効に機能させるための課題を指摘する。

著：所浩代（ところ・ひろよ）

発行：旬報社

本体価格：5000円（税別）

ISBN：978-4-8451-1408-5

---

(編集後記)

弊機構が発行している情報誌『インクル』は1月末に100号の発行を迎えます。たくさんの方々に支えられここまで歩んでこられたことを、一冊にまとめることは難しいですが、これまでの歩みと今後について示させていただきました。

機会がございましたらご一読頂けますと幸いです。(森川 美和)

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>